

2019 年度事業報告

特定非営利活動法人ふおーらいふ

総括

不登校状態にある児童・生徒が法人の教育理念「自主」「自立」「生活と命」に基づく活動へ主体的に参加することができた。また青少年本部、神戸市青少年育成支援事業補助金、しみん基金こうべなどの助成を受け、自然体験活動や地域交流を企画、スクールの児童・生徒たちが安全に各活動へ参画できるようサポートでき、活動を通して、児童・生徒たちの意欲を高めることができた。

(1) 青少年が主体となって総合的に学び、育ちあうフリースクールの運営

1. 自然体験・仕事体験の実施

青少年本部、神戸市青少年育成支援事業補助金による助成を受け、里山工房での自然体験活動を実施し、6月は11名、11月は13名の子どもが参加した。

学校に行きづらい子どもたちが自然の中で過ごすことの体験と交流の場が実現し、指導者のもとで、山を整備するなど里山保全活動を通して、道具の使い方、自然との共生の意味を知ることができた。また、初めて挑戦する事も多く、子どもたちの自信が付き、今後の活動のイメージを掴むことができたことは、大きな成果となった。



里山工房での自然体験

2. 地域交流の実施

しみん基金こうべによる助成金を受け、プロの音楽家である梶原徹也氏を招き、地域交流を目的とした、文化祭「仲間展」を実施し、12名子どもが参加した。

午前の部では、子どもたちによる企画を行い、午後の部では、梶原氏によるワークショップや、梶原氏と子どもたちがコラボレーションしたバンド演奏を行った。

また、他のスクールと連携を取り、文化祭を通してメンバー同士の交流やバンド演奏を行い、不登校ならびに学校外で学び育つ子どもの活動が展開されるきっかけとなった。



文化祭「仲間展」記念写真

3. その他の活動について

地域の方々を招き、調理体験の一環として、「ロング巻き寿司」作りを実施し、12名の子どもが参加した。

当日は、子どもたちの他、3名の地域の方々に参加していただき、交流を深めながら実施することができた。



ロング巻き寿司作り

また、企画は中止となったが、京都への卒業旅行の資金集めとして、クラウドファンディングを実施した。

子どもたちが発案、企画作りなどを行い、今後も活かされる自主性や活動意欲を高めるきっかけとなった。

(2) 学習およびコミュニケーションに関する支援事業

1. ひきこもりの若者支援

毎月第4土曜14時から年間でのべ11回、義務教育後に居場所がなく、地域で孤立しがちな若者を対象に、ゆるやかにつながりあえる場「若者サロン」を実施した。

対象者の他に、大阪で引きこもりの若者の居場所活動を行っている方などが参加し、交流を深めた。

2. 放課後クラブについて

毎週火曜・木曜16時から、年間でのべ84日、発達障害などの学びづらさがある小学生の学習支援を実施した。

今年度より利用者は少なくなったが、スタッフがスキルアップし、算数・数学のサポート体制を強化した。

(3) 生涯学習に関する機会と場の提供

1. 公開講座の企画実施について

親の会・若者サロンの公開講座として、5月に広野ゆい氏を招き、当事者の視点から発達障害について講演いただき、28名が参加した。

また、7月に宇陀直紀氏、12月には宇陀スミエ氏を招き、自身の不登校体験や不登校の子どもを持つ親としての経験をお話いただき、宇陀直紀氏の講座は25名、宇陀スミエ氏の講座は10名が参加した。

2. インターンシッププログラムについて

神戸学院大学の学生インターン2名を受け入れし、1ヶ月かけ、のべ48時間にわたり多様な教育とNPO実務等について研鑽する機会を提供した。

(4) 教育や不登校などの相談及び支援・情報の提供活動

1. 情報提供活動について

当法人多目的室(ルームB)にて、毎月第3土曜日に一般公開の不登校親の会を開催し、年間11回、のべ103名が参加した。また、隔月の奇数月第一土曜日に、こうべLDの会と協働で、発達障害について考える親の会を開催し、年間6回、のべ24名が参加した。

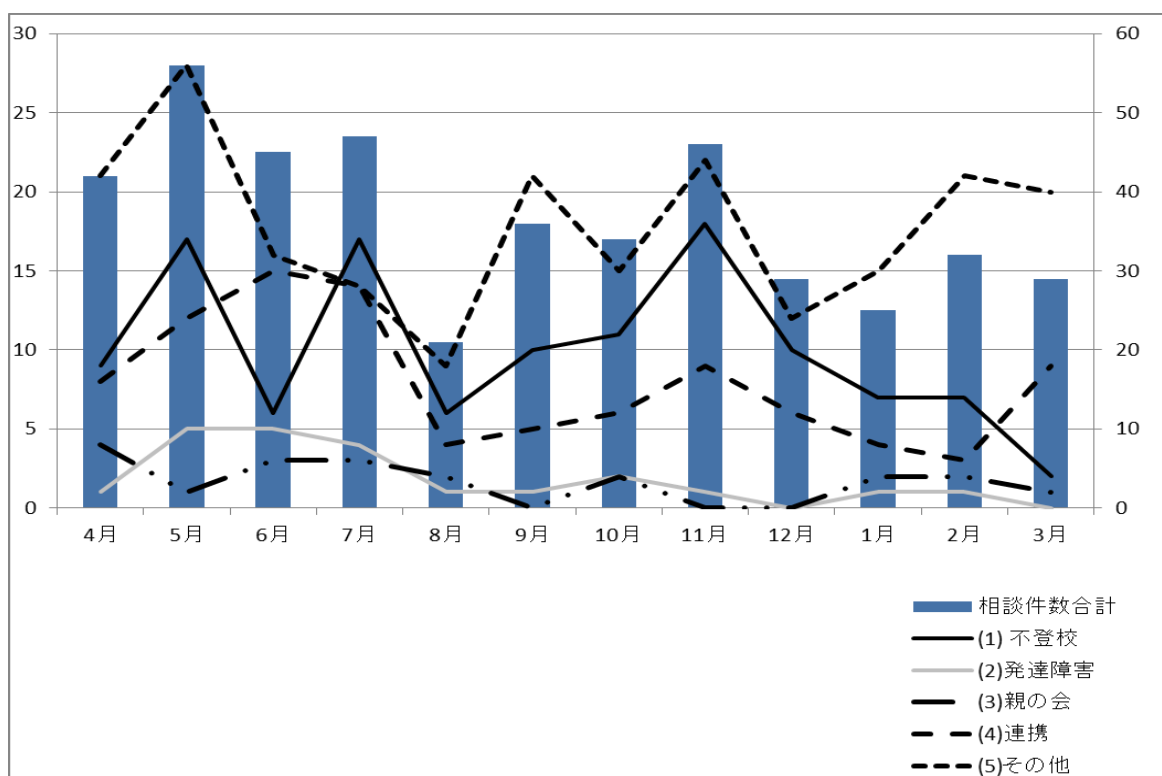
株式会社イオンリテール主催のイオン幸せの黄色いレシートキャンペーンや地元自治会主催の地域行事へ参加した。

団体機関紙「ゆう通信」を年4回発行し、会員、支援者、関係機関約250ヶ所へ発送した。

2. 情報提供のうち団体内部での取り組みについて

毎月第2・第4火曜日に、職員とボランティアが情報共有できる場を設定し、各自が抱えるケースの共有を行った。また、新入職員を中心に不登校・普通教育機会確保法関連の研修等を受講した内容について、伝達講習を行い、各自の能力開発を推進した。

(図1) 2019年度の相談件数の推移



※ 相談件数は、電話の合計

(5) その他第3条の目的を達成するために必要な事業及び前号の事業に付帯する事業

1. 当法人の地域参画等について

フリースクール全国ネットワーク、ふりー！すくーりんぐなどが主催する会議体において、不登校支援団体との意見交換や各種提言、企画などに協力した。また「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法」（教育確保法）の成立に伴い引き続き「兵庫県フリースクール連絡協議会」に主体的に参画し、各教育委員会（神戸市／明石市／尼崎市など）との連絡会に参加し、不登校の子どものために、より良い環境設定の要望を示した。その他、当法人の蓄積（教育・福祉・子ども・青少年）を活かし、神戸市垂水区社会福祉協議会と協働し、赤い羽根共同募金を財源とする公募型助成事業の仕組みづくりに従事した。また、NPO 法人しゃらくが受託する神戸市協働と参画のプラットフォームの運営のうち、持続可能な開発目標（SDGs）をテーマとした神戸ソーシャルセミナーの企画・開催に携わった。